

漁協組合員がJA直売所へ出荷

—組合員をサポートするJF平塚市—

主任研究員 田口さつき

1 JA直売所出荷の経緯

産地市場は、漁業者にとって大量の水産物の取引ができ、輸送コストも意識しないですむため、非常に重要な販路である。ただ、産地市場での魚価低迷から様々な取引先を模索する動きもでてきている。神奈川県では、産地市場をメインにしつつ、JAの直売所へも出荷する漁業者が増えている。なかでも平塚市漁協とその組合員は、県内でも早い時期(2009年)からJA直売所へのお荷に取り組み、現在では多くのファンを獲得している。

平塚市漁協(以下「JF平塚市」)は、組合員90人(うち正組合員45人)、職員2人の漁協である。^(注1)漁業種類は定置網が2か統、シラス網が3か統、刺し網2か統である。遊漁船を営む組合員も多い。

農協直売所出荷となると、①直売所までの輸送の所要時間とコスト、②小売りするための作業の煩雑さが課題となる。

JF平塚市において、①については、神奈川県漁連が直売所まで鮮魚の配送を行う支援スキームを打ち出した。また、②は水揚げ後の値付け、袋詰めやバーコード張りといった新たな作業も、組合員は真摯に取り組んだ。

テイクオフ段階での県漁連の支援も終わり、現在はJAあつぎとJA湘南の直売所に組合員が配送している。なお、両直売所には、組合員を代表してJF平塚市がお荷者として登録している。

2 JAあつぎ「夢未市」での対面販売

JAあつぎ直売所「夢未市」はオープン(09年12月)に当たり、JF平塚市に週1回の鮮魚販売が可能かを打診。当初は輸送コストが問題になると懸念されたが、すでに他の直売所出荷を経験していたこともあり、JF平塚市の組合員は申し出に応じた。すると、JAあつぎは直売所のレイアウトを一部変更し、店外で漁業者が消費者と対面販売できるスペースを作った。

現在、定置網2か統が交替でお荷、販売を行う。これにシーズンにはシラス網の組合員も加わる。^(注2)この漁業者による対面販売が消費者に受け、「消費者が料理した魚を写メで見せてくれる(組合員談)」など、話が弾んでいるそうである。また、漁業者も、消費者の嗜好にあった鮮魚を選別するようになっている。お荷したものは、ほぼ完売の状態である。夢未市では、毎週金曜日だった鮮魚販売日を今年から火曜日も追加することとした。

3 JA湘南「あさつゆ広場」での常設コーナー

JA湘南は平塚市内に直売所「あさつゆ広場」を10年にオープンした。同JAは、直売所に鮮魚があれば、市内だけでなく、周辺の伊勢原市等の住民の関心を呼ぶと見込んだ。また、直売所で、野菜、肉、米に加えて、鮮魚が調達できれば、利用者の利便性があがると考えた。そこで、直売所構想の段階で店内に常設の鮮魚コーナーを設けることをJF平塚市と協議した。常設となると、輸送の問題がより厳

しくなると思われたが、ある定置網の漁業者が、建設予定地が帰宅ルートにあることから出荷が可能と答えたことにより、県内初のJA直売所の常設鮮魚コーナーができた。

出荷日は、原則として水、日曜日を除く毎日である。売れ残りは漁業者が持ち帰ることになっているが、実際には値下げなどの判断を含め店長に一任しており、開店以来、ほとんど売れ残りが無い。

現在、定置網(1か統)とシラス網の組合員が^(注3)出荷している。鮮魚は同じ魚種の何尾かをビニール袋に未処理のまま入れた状態で、シラスはパック詰め販売している。同直売所では、禁漁期(1月1日～3月10日)や不漁などで鮮魚が供給できない場合は、シラス網の組合員によってストックされたシラス干しが並ぶ。それが好評で売り切れると、鮮魚コーナーを他のもので埋めるなど柔軟に対応している。目当ての鮮魚がないという声に対し、店長が天候状態を説明すると、消費者自身も同じ地域で悪天候を体験しているだけに納得するようである。

なお、JF平塚市は月に一度、地元の平塚漁港(新港)で「地どれ魚直売会」を午後2時から行っている。この直売会に同直売所から野菜が提供されており、地元での連携は深まっている。



「あさつゆ広場」内の常設鮮魚コーナー

4 朝どれ情報で組合員を支援

JF平塚市では、11年から直売所利用者に対し、当日出荷される鮮魚の情報を流している。これは、組合員が当日出荷する魚種と量をメモにし、組合のポストに入れ、出勤した職員がそれを組合サイトやツイッター、登録制のメルマガに反映する。そのため、鮮魚ファンは事前にどのような魚が届くのかがわかる。人気の魚が出荷される日は開店前から並ぶ人がいる。

JAの直売所は、漁業者にとって、運営者、利用者ともに天候などにより水揚げが左右されることへの理解が得られていること、地元の住民と接点が深められるという利点がある。浜では漁業者がスマホ・携帯を片手に直売所での売れ行きを確認するというこれまでになかった姿が見られるようである。

JAの直売所への出荷は、組合員の所得の下支えになっているだけでなく、組合員が漁業の可能性の広がり気づく効果があった。また、JA直売所の店長からは、漁業者と話すと漁業や海について勉強になる、漁業者やJF平塚市の頑張りが励みになるという意見がでていいる。直売所を媒体とした協同組合間連携は地産地消や生産者の所得への貢献だけでなく、関わる人々の意識も変えている。

(たぐち さつき)

(注1) JF平塚市では販売事業を行っていない。また、市場機能は、公設市場(㈱平塚魚市場)が担っており、仲買人がいないという点も既存の商習慣との対立がなく、組合員が新しい取組みに挑戦しやすくなっていると思われる。

(注2) 販売手数料としては、夢未来市に手数料15%、JF平塚市に事務手数料2%を支払う。

(注3) 販売手数料としては、あさつゆ広場に手数料18%、JF平塚市に事務手数料2%を支払う。